

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 263 号	2023年6月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠
---------------------------	--------------------	--

1. 活動報告（事務局 記）

- 5月28日（日）天気は曇りで作業には好都合でした。会員12名で、田の畔塗り、手植え用のロープの確認、田の周りや草の処理場の草刈り、駐車場の草刈り、市道の落ち葉の掃除、蓮田のエコアップ、東屋横のツバキの剪定の作業を行いました。
- 6月3日（土）辻野会員が苗を運搬され、田んぼに投入されました。原谷会員と手植え用のロープの赤テープの間隔などを確認しました。
- 6月4日（日）天気も良く、田植が無事に終わりました。参加者は、親子自然観察隊（親25名、子35名）、二俣瀬子ども会（親15名、子16名）、宇部市長と秘書、市民センター長、ふれあいセンター広報担当、会員17名の計112名でした。子供たちも慣れてきたのか順調に植えていき、泥まみれになる子もいましたが、楽しんだようです。
- 6月18日（日）天気は薄曇りで、作業には都合よく、会員16名で、田の周り・観察路・市道・草原ゾーンの草刈り、田んぼの苗の補植と雑草防止用のヌカの散布、サツマイモの苗の追加、竹林に残っている電柵の柵の回収、蓮田のエコアップの作業を行いました。

2. 今後の予定（事務局 記） ◎行事

- 7月2日（日）エコアップ（ため池イグサ・湿地帯スゲ間引き）
- 7月16日（日）稲作体験・田の草取り（親子自然観察隊・二俣瀬子ども会を招聘）
維持活動（観察路・駐車場の草刈り）
- 7月30日（日）維持活動（草刈り・清瀬峡整備）

3. 来訪者の声

今回はありません。

4. 会員の声 「二俣瀬ビオトープにて環境学習会」 (菅 哲郎 記)

2023年6月11日(日) 宇部自然保護協会主催の環境学習会を宇部市二俣瀬のビオトープで行いました。講師は「山口昆虫楽会」の角田正明氏にお願いしました。

幸いお天気は曇り空、予報ではお昼には晴れるとされていたので、室内での講義はやめ屋外へ出での学習会へ変更しました。9:30より二俣瀬公民館にて受付け、9:45には全員揃いビオトープ駐車場に移動しました。

9家族15名ほどが集まり、全員徒歩でフィールドへ向かいました。草原ゾーン手前より昆虫を探しながら、見つけては角田講師の説明を受け、昆虫の森、湿地帯を抜け東屋まで到着しました。時間が少しありましたので、ここで角田講師は標本を取り出し、説明を行いました。「オオガタカブトムシ類」「モルフォチョウ類」「大型のガ類」など外国の珍しい昆虫にみんな驚いていました。

フィールドでの学習を終え、いったん駐車場へ全員戻り、ここでケースに入ったカブトムシ・ペアの幼虫を子供たち全員にプレゼントされました、飼育方法の説明書も配布されました。終了と同時に正午を告げるサイレンが鳴り、時間通りに学習会を無事に終わりました。

筆者である菅は宇部自然保護協会の会員でもあり、参加しましたので報告いたしました。



駐車場に集合



観察会の様子



子供全員にカブトムシ幼虫のペアを配布

5. 親子自然観察隊 「稲作体験：田植え」 （菅 哲郎 記）

今週全半は雨模様でしたが、本日6月4日（日）の朝の天気は曇り空、絶好の田植え日和となりました。8：00の気温は18℃と田植え作業のしやすい陽気となりました。

今年も宇部市長さんをはじめ二俣瀬公民館長、二俣瀬子供会の皆さんやご家族、ビオトープ会員の皆さん合わせ110名ほどの参加者となり、さらに一般の観察者も数名訪れ、大変にぎやかな田植えとなりました。

宇部市長様より田植えはじめ作業を行っていただいたのち、田植えが始まりました。観察隊の隊員には新規に入会され田植えは初めてという親子も多かったのですが、今年は大変上手に田植えができたようで見事な仕上がりとなりました。11時前には無事に田植え作業を終了し、ご褒美のお菓子をいただいて解散できました。

今年は原田会長に代わり辻野会員の指導の下、田植えを進めてきましたが、全く問題なく進行しているようで安心です。今年の田植えも無事終了しましたが、会員の皆様の努力のたまものです、皆さんご苦労様でした。



篠崎宇部市長 挨拶



田植えの説明を行いました



市長による苗の植えはじめ



泥だらけでも楽しかったです！



今年はみんな泥だらけになりました。



田植え終了の後 みんなで“万歳”

親子自然観察隊の感想

★溝邊睦

汚れるのは好きじゃないけど田んぼはとても楽しくて好きです。田植えはとても楽しかったです！おもちになるのが楽しみです！

★溝邊義人

とても楽しかったです！たくさん人がいて少ししかできなかったけど、田植えが今年もできて良かったです！

★溝邊（母）

お天気にも恵まれ、いろんな子どもたちとお話をしながら田植えを楽しませていただきました！田植えをするまでの段取りから世話も含めつくる会の方々にいつも楽しい経験をさせていただき感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました！

★湯浅（母）

2年生の娘は、今年は最後まで田植えをすることができました！子どもの成長を感じることができました。これからも楽しみながらたくさんの方に挑戦してほしいと思います。貴重な経験をありがとうございます！

★篠田喜和子、結倫子

楽しかったです。去年よりも上手に植えることが出来たと思います。川で泥を洗い流すのも楽しい。

★篠田（母）

今年は田んぼの隅っこの三角部分に、初めて田植え定規を使って田植えを経験しました。定規がズレずに回転させやすくするための刃がついていて、そういった工夫についても学ぶ機会となりました。今年はお天気もよく（田植え日和ではありませんが）、終始楽しく田植えをすることが出来ました。子供たちにもこのような機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。

★嶋本（母）

稲作体験では、親子共々貴重な体験をさせて頂きました。稲作は古来から食料を確保するという面で大変重要な行事であったとお伺いし、息子も真剣に取り組んでいました。ありがとうございました。

★王丸

初めての田植えにドキドキしました。田んぼの中はひんやりと心地よかったです。おたまじゃくしや、カエルがたくさんいる中、ヒルもいたので、びっくりしました。お米がとれるのが楽しみです。

★王丸（母）

田植えはとても大変なお仕事だなと身をもって感じました。土の触感は気持ちよかったです。1歩ずつ足を泥に取られ、足を動かすことが大変で、短い時間でも体力を奪われ、一日これをやっていくことは本当に大仕事だなと、痛感いたし、お米を作ってくださいの方に感謝の気持ちが湧きました。稲を植える場所は、機械が通るだけの幅を保ちながら植えなくてはならないことを知り、そのために縄や竹の棒で場所を明確に示していただいたので、植え終わった田んぼは綺麗な仕上がりに、嬉しく思いました。

★豊田優那

はじめて田植えをしました。お米を作るのは大変なんだなと思いました。

★豊田（母）

幼い頃に、祖父の田植えの手伝い(邪魔?)をしていましたが、久々に田んぼに入り、懐かしく感じました。あんなに泥にまみれる機会はなかなか無いので、一度は体験させたいと思っていましたが、とても良い経験になったと思います。米作りの大変さも体感し、食育としても色々と学べた一日だったと思います。

★國重（母）

綺麗に草刈り、整備されており田植え後の川遊びも楽しめたので子どもがとても喜んでおりました。ありがとうございました。

6. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

(88) アカガネコハナバチ *Halictus aerarius* コハナバチ科アトジマコハナバチ属

日本全国に分布する小さくてかわいいコハナバチ。体長は6~8ミリで、頭部は緑色を帯びた金色をしています。コハナバチ科はおよそ6属105種類に及び、多く小さくて見つけにくいのですが、体全体は黄金色をしており他のコハナバチとは区別でき意外とわかりやすいハチです。夏から秋にかけて、ビオトープでも多く見られますが、よく探さないと小さいのでなかなか見つかりません。山口県内どこにでも見られます、花の咲いている場所で探してみてください、夏季に多く見られますし野草の花に多く集まります、素手で捕まえ握りしめたりされなければ、人を襲ったり刺すようなことはありません、巣は泥の中に穴を掘って産卵します。



アカガネコハナバチの大きさの比較



正面からの顔



アカガネコハナバチの飛翔 シロツメクサの花に訪花

7. 会よりの連絡事項

- 1) 今回はありません。

8. 編集後記 (前田 歳朗 記)

6月に入ってから、ウシガエルの監視も兼ね、3日おきにエコアップをしています。老化のせいで、以前と違い1～2時間程度の作業で疲れます。ウシガエルについては、卵を4塊見つけました。昨年より、減った気がします。来年度のビオトープ引き継ぎの際、極力整備された形で引き渡したいと考え、作業を続けている次第です。

エコアップの作業は、いわゆる3Kといえます。膝まで浸かった水の中の作業はきつく、手先は泥だらけ、マムシの危険にもさらされます。何とか楽な作業が出来ないかと思案しましたが、良い方法を思いつきません。ビオトープには貴重な在来種が多く生えており、これらを維持しながら外来種などを撤去するためには、手作業が必要なのです。

しかし、楽しみはあります。昨年は、ミズオオバコ、イヌタヌキモの花を確認できました。泥の中から、タイコウチなどの水棲昆虫をすくい上げることも度々あります。羽化をしているトンボも見かけます。疲れを忘れさせてくれます。これらを楽しみとして感じられる性格でないと、エコアップの作業は務まらないのではないのでしょうか。

今年度で“ビオトープをつくる会”の活動は終了する予定です。稲作活動は何らかの形で引き継がれるでしょうが、エコアップ作業については、引き継がれる可能性は少ないと思います。相当なもの好きでないと、このような作業を続けられないでしょう。しかし、僅かな希望を糧に、エコアップを続けようと思っています。